



私たちは、未来へつなく「環境づくり」と「人づくり」に貢献します。

グループの社会貢献活動 「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」

【阪神電気鉄道】

阪神電車に親んでもらうための手作りイベント 「鉄道の日 はんしんまつり」

未来を担う子どもたちに、阪神電車への親しみを持ってもらうことを目的に、毎年11月上旬に開催している「鉄道の日 はんしんまつり」。2006年にスタートしてから12回目を迎えた今年も、スタッフが自ら作り上げたさまざまなアトラクションで、会場には子どもたちの笑顔があふれました。



毎年、多くのお客様にご来場いただいている「はんしんまつり」は尼崎車庫で開催。かつて電車に必要な電気を生み出す火力発電所として使用されていた赤レンガの趣ある建物が、子どもたちを出迎えます。

「はんしんまつり」のこだわりは、各アトラクションの手作り感。スタッフは、開催の約5カ月前から、お客様に楽しんでいただくために知恵を出し合い、とりわけ「洗車機通過体験」や「電車と綱引き」などの体験型企画は、毎年子どもたちに大人気。

こうした楽しさを追求する一方で、安全面でも周到な準備を進めます。イベント当日はスタッフ間で密に連携を取り合い、ご来場の方々が安心して楽しく過ごしていただけるよう、いかなる状況にも対応できる体制を

とっています。

11月3日に開催した今回は、過去最多の7,000名ものお客様を招待し、会場は大にぎわい。手作りの「ミニ阪神電車」に乗る子どもたちを保護者の方々が笑顔で見守り、また車両のドア開閉体験など本物の計器に触れている子どもたちは興味津々といった様子でした。このほか、それぞれのブースでは、笑顔で出迎えたスタッフが自ら案内や説明をし、お客様とのふれあいを心から楽しんでいました。

阪神電気鉄道では、今後も子どもたちが鉄道の仕組みや役割を知り、さらに親しみを持っていただけるよう、より魅力ある鉄道イベントを提供してまいります。

HANKYU HANSHIN Letter

株主通信
Vol. 34
2017年11月発行

トップメッセージ 長期ビジョンの実現に向け グループ丸となって 取り組んでまいります



発行： 阪急阪神ホールディングス株式会社 〒530-0012 大阪市北区芝田一丁目16番1号
TEL: 06-6373-5100 FAX: 06-6373-5670

株主様のご意見・ご感想をお待ちしております。
<http://www.hankyu-hanshin.co.jp/contact/>



この印刷物は、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用しているFSC® 認証紙を使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

長期ビジョンの実現に向け グループ一丸となって 取り組んでまいります



代表取締役会長 グループCEO

角 和夫

代表取締役社長

杉山 健博

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

当社グループでは、景気が緩やかな回復が続ける中、中期経営計画の目標を達成すべく、グループ経営機能を担う当社のもと、中核会社を中心に各コア事業の競争力の強化を図るとともに、コア事業間の連携を通じてグループ総合力の発揮に努めました。その結果、2017年度第2四半期の連結業績につきましては、旅行事業においてヨーロッパ方面の集客が増加したことや、エンタテインメント・コミュニケーション事業においてスポーツ事業が好調であったこと、また国際輸送事業において航空輸送を中心に堅調に推移したこと等により、営業収益、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、いずれも前年同期に比べ増加しました。

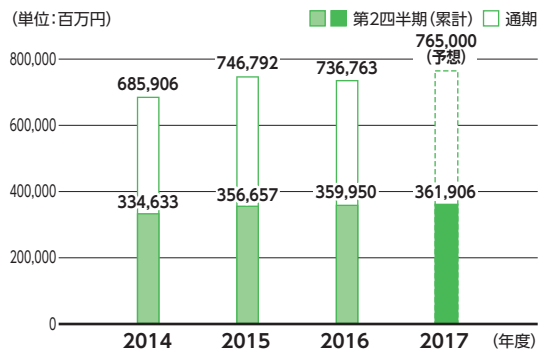
通期の連結業績予想につきましては、不動産事業においてマンション分譲戸数が増加することや事業用地を売却すること、エンタテインメント・コミュニケーション事業においてスポーツ事業およびステージ事業が好調に推移すること、また鉄道事業において阪急線・阪神線が堅調に推移すること等により、営業収益は7,650億円、営業利益は1,040億円、経常利益は1,010億円、親会社株主に帰属する当期純利益は660億円と、いずれも前回（2017年5月）発表予想を上方修正しております。

これからは、少子化等の影響により沿線人口の減少が見込まれる一方で、訪日外国人の増加や技術革新の進展など、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化していくことが予想されます。こうした中でも成長を志向する企業グループとなることを目指して、当社グループでは今年5月に「阪急阪神ホールディングスグループ 長期ビジョン2025」を発表しました。今後は、この実現に向けて中期経営計画を策定するとともに、「深める沿線 拡げるフィールド」というスローガンのもと、さまざまな施策を着実に実行し、持続的な企業価値の向上を図ってまいります。

なお、株主の皆様への利益還元につきましては、近時の業績が安定的に推移していることに加えて財務体質の改善も着実に進捗していることを踏まえ、今期から1株当たりの年間配当金を35円から40円に引き上げております。同時に総還元性向も従来の25%から30%に変更し、株主還元の充実を図っております。

これからも株主の皆様のご期待に応えられるようグループ一丸となって取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

営業収益

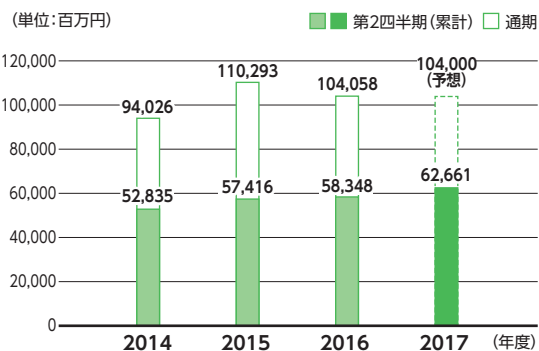


3,619億6百万円
(前年同期比0.5%増)



旅行事業においてヨーロッパ方面の集客が増加したことや、エンタテインメント・コミュニケーション事業においてスポーツ事業が好調であったこと、また国際輸送事業において航空輸送を中心に堅調に推移したこと等により、営業収益は3,619億6百万円と前年同期比0.5%の増収に、営業利益は626億61百万円と同7.4%の増益となりました。営業利益は、第2四半期としては過去最高となりました。

営業利益

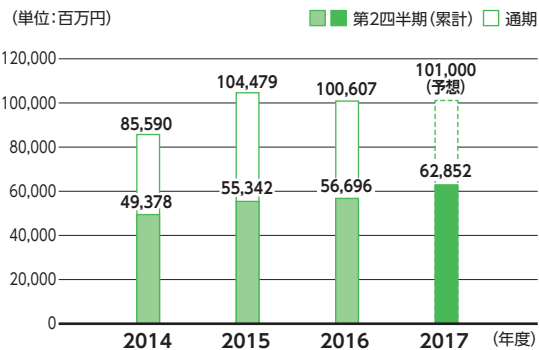


626億61百万円
(前年同期比7.4%増)



※2016年度より、国際輸送事業の輸出混載貨物等に係る取引について、営業収益の計上方法を純額表示から総額表示に変更しております。この変更に伴い、2015年度については、総額表示に遡及修正しておりますが、2014年度については、純額表示となっております。

経常利益

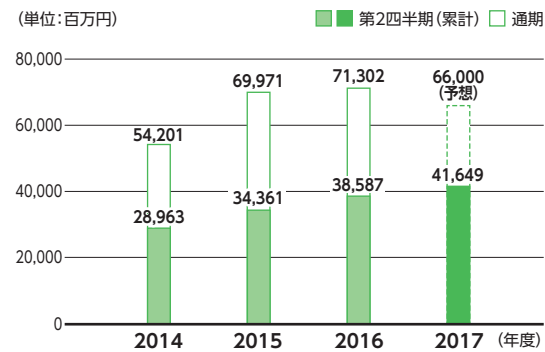


628億52百万円
(前年同期比10.9%増)



営業利益が増加したことに加え、営業外損益も改善したこと等により、経常利益は628億52百万円と前年同期比10.9%の増益となり、第2四半期としては過去最高となりました。

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

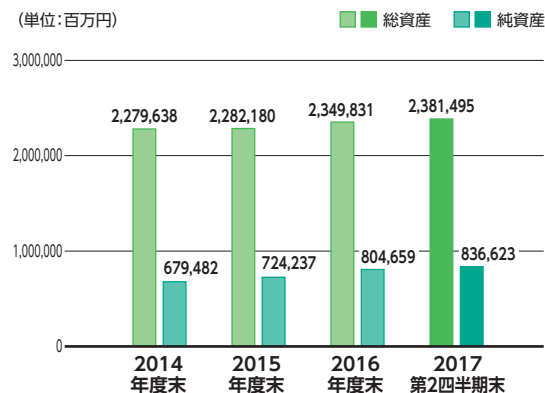


416億49百万円
(前年同期比7.9%増)



経常利益が増加したこと等に伴い、親会社株主に帰属する四半期純利益は416億49百万円と前年同期比7.9%の増益となり、第2四半期としては過去最高となりました。

総資産・純資産



総資産 2兆3,814億95百万円
(前期末比316億64百万円増)

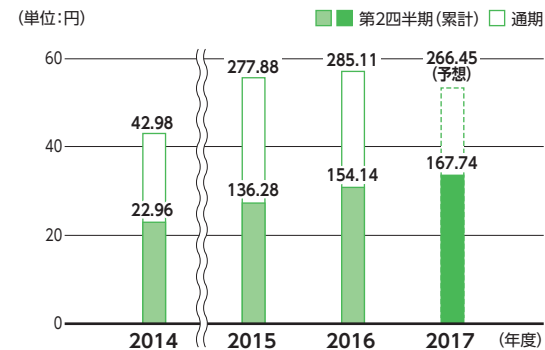


純資産 8,366億23百万円
(前期末比319億63百万円増)



総資産は、販売土地及び建物や投資有価証券が増加したこと等により2兆3,814億95百万円となり、前期末に比べ316億64百万円増加しました。また、純資産は、利益剰余金が増加したこと等により8,366億23百万円となり、前期末に比べ319億63百万円増加し、自己資本比率は34.4%となりました。

1株当たり四半期(当期)純利益



167.74円
(前年同期比13.6円増)



※2016年8月1日を効力発生日として株式会社(5株を1株に併合)を実施しましたが、2015年度の期首に当該株式会社が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

阪急阪神ホールディングスグループ 長期ビジョン2025

当社グループでは、長期的にありたい姿とそれに向けて取り組むべき方向性・戦略を示すものとして「阪急阪神ホールディングスグループ 長期ビジョン2025」を策定し、5月に発表しました。

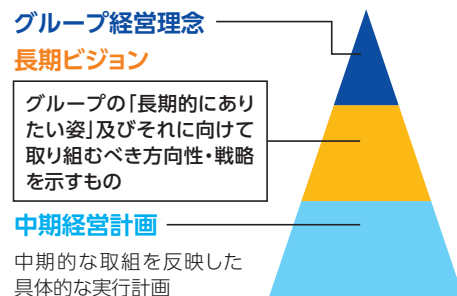
この長期ビジョンでは、阪急・阪神の経営統合から20年を迎える2025年度をターゲットにして、「深める沿線 広げるフィールド」というスローガンのもと、人口の減少や技術革新の進展といった事業環境の変化を見据えながら、事業エリアとビジネスモデル（ストック型事業※1又はフロー型事業※2）という2つの基軸をベースに、4つの事業戦略を定めています。

※1 ストック型事業：土地建物等の固定資産を保有して営業活動を行う事業（鉄道事業、不動産賃貸事業、放送・通信事業、ホテル事業等）

※2 フロー型事業：大規模な固定資産を保有することなく、事業ノウハウ、人的資源及びブランド資産等を活用して営業活動を行う事業（不動産分譲事業、スポーツ事業、ステージ事業、情報サービス事業、旅行事業、国際輸送事業等）

長期ビジョンの位置付け

長期ビジョンは、当社グループの「経営理念」と毎年度策定（ローリング）する「中期経営計画」との橋渡しの役割を果たします。



スローガン 深める沿線 広げるフィールド

持続的な企業価値の向上

戦略① ストック型事業（梅田・沿線）

関西で
圧倒的No.1の
沿線の実現

戦略② ストック型事業（首都圏・海外）

首都圏・海外での
安定的な
収益基盤の構築

戦略③ フロー型事業

ブランド価値の最大化と
差別化戦略の徹底追求
による競争力強化

戦略④

グループ総合力の更なる発揮と新事業領域の開拓

戦略① ストック型事業（梅田・沿線） 関西で圧倒的No.1の沿線の実現

国土軸（東京-名古屋-大阪）の活力やアジアをはじめとする世界のパワーを沿線に取り込むとともに、新産業・先端技術を他社に先がけて沿線に呼び込み、加えて沿線の各所で魅力あるまちづくりを推し進め、定住・交流人口の増加を目指していく。

FOCUS 宝塚ホテル移転計画 ▶ P7

戦略② ストック型事業（首都圏・海外） 首都圏・海外での安定的な収益基盤の構築（梅田・沿線に集中しているポートフォリオの分散）

関西圏の事業規模の縮小を補完するため、市場規模の大きい首都圏や成長が期待できる海外において賃貸資産等のストック取得を進め、梅田・沿線に集中しているポートフォリオの分散を図っていく。

FOCUS 海外における物流倉庫事業 ▶ P8

戦略③ フロー型事業 ブランド価値の最大化と差別化戦略の徹底追求による競争力強化

阪急・阪神のブランド価値の最大化や、オンリーワンになることを目指して商品・サービスの差別化を徹底的に追求し、それらにより事業競争力の一層の強化と事業の更なる拡大を図っていく。

戦略④ グループ総合力の更なる発揮と新事業領域の開拓

グループ横断的な取組の推進に加え、先端技術の既存事業への活用や新たな事業領域の開拓に挑戦し、文化的かつ先進的なライフスタイルを提供していく。

FOCUS はんしんいきいきデイサービス ▶ P9~10

長期的にありたい姿

人口動態の変化の影響を大きく受ける2040年度頃においても、最低でも現行水準の営業利益を生み出せる企業グループになることを目指していくこととし、それを前提に2025年度時点で、営業利益1,200億円・EBITDA※12,000億円・有利子負債／EBITDA倍率5倍台を目指して推し進めていきます。

これにより、収益性・財務健全性を示すいずれの指標も、引き続き大手民鉄の中でトップクラスの水準を確保していきます。

※1 EBITDA：営業利益+減価償却費+のれん償却費
※2 前回（2017年5月）発表予想を上方修正しています。

（単位：億円）

	指標	2016年度 （実績）	2017年度 （予想）※2	ありたい姿 2025年度
収益性	営業利益	1,041	1,040	1,200
	EBITDA	1,593	1,600	2,000
財務健全性	有利子負債 /EBITDA倍率	5.6倍	5.6倍	5倍台

戦略① FOCUS

宝塚ホテルを移転・新築し、 伝統を受け継ぎながら 新たな魅力を発信

阪急電鉄と阪急阪神ホテルズでは、宝塚ホテルの移転計画を推し進めています。

同ホテルは、1926(大正15)年に、当時としては先進的な洋館ホテルとして開業し、90年余りの永きにわたり多くのお客様にご愛顧いただけてまいりました。しかしながら、経年による建物や設備の老朽化に加え、現行法上の耐震基準を満たしていないこと等から、今般、宝塚大劇場の西側隣接地に移転・新築することとしました。

新しい宝塚ホテルは、阪神間モダニズムと称されるクラシカルな現ホテルのデザインを継承し、客室は、現在を上回る約200室を予定。宝塚大劇場のオフィシャルホテルとして、宝塚歌劇のディナー



新ホテルの外観イメージ

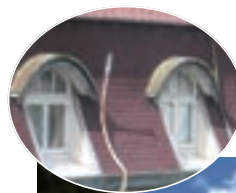
ショーを開催できる大宴会場などのほか、親しみやすいカフェレストラン&バイキングや、上質なお食事をお楽しみいただける日本料理、鉄板焼、ラウンジを設けます。

そして、これまで以上に宝塚歌劇と連携して新たな魅力を発信し、宝塚のまちのイメージをさらに向上すべく努めてまいります。

新ホテルは2020年春の開業を目指しており、現在の宝塚ホテルは、新ホテルが開業準備に入るまで営業を継続する予定です。



開業当時の宝塚ホテル



ドーマー窓と半円形屋根



切妻屋根の壁面に描かれている植物モチーフのレリーフ

現在の宝塚ホテル



- 敷地整備工事 2017年9月～2018年春(予定)
- ホテル新築工事 2018年春～2020年春(予定)

戦略② FOCUS

物流倉庫を建設・保有し、 アセアン地域で事業を推進

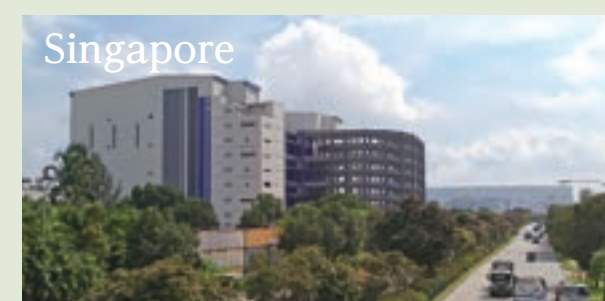
当社グループでは、国際輸送事業を担う阪急阪神エクスプレスと、国内で不動産事業のノウハウを蓄積してきた阪急電鉄・阪神電気鉄道とが共同で、アセアン地域における物流倉庫プロジェクトを推進しています。



Indonesia

◎インドネシア倉庫

所在地：西ジャワ州プカシ県 (ジャカルタ中心部より東へ約24km)
敷地面積：18,210㎡ 延床面積：11,855㎡
開業：2016年3月14日



Singapore

◎シンガポール倉庫

所在地：ジャランブロー (シンガポール中心部より西へ約20km)
敷地面積：19,154㎡ 延床面積：47,885㎡
開業：2017年5月29日

インドネシアでは2016年3月に、シンガポールでは2017年5月に、それぞれ営業を開始しましたが、両倉庫とも非常に良い立地にあり、物流拠点として高い競争力を有しているだけでなく、高品質なサービスを展開しています。

これらを契機として、国際輸送事業は、フォワーディング(航空・海上輸送)にとどまらずロジスティクス(倉庫)機能を強化した総合物流事業への展開を図り、一方、不動産事業は、既にグローバルネットワークを擁する阪急阪神エクスプレスからの情報等も活用して、倉庫賃貸事業だけでなく分譲事業など、海外展開の更なる推進を目指しています。

戦略④ FOCUS

リハビリ特化型の「はんしんいきいきデイサービス」を阪急・阪神沿線で14店舗展開

リハビリ特化型デイサービス「はんしんいきいきデイサービス」は、高齢者の方々が住み慣れた街でいきいきとした生活を送っていただくことを目的とした店舗で、2013年10月に西宮で第1号店舗をオープンしました。その後、阪急・阪神の沿線で店舗展開を進め、現在、大阪府および兵庫県内の14店舗で営業しています。

各店舗では、ご利用者が安心してリハビリに取り組めるよう、ドイツの認証を日本国内で唯一取得した信頼性の高いリハビリ機器を採用するとともに、

ゆったりと快適にお過ごしいただけるスペースを設け、心身両面の機能向上（介護度の維持・改善）が図れるように努めています。

施設を運営するいきいきライフ阪急阪神では、これからも「半日タイプのリハビリデイサービスの地域一番店」を目指してまいります。



ロゴマークについて

中央の大きな木は施設を表し、そこに鳥（ご利用者）がとまり、再び元気になって飛び立っていくという意味が込められています。

明るく広々とした室内

全体にゆとりがあり、窓も大きくとっていますので、明るく開放感のある室内となっています。運動スペースのほかにコミュニケーションスペースを設けており、ご利用者同士だけでなく、スタッフも交えて気軽に会話やティータイムを楽しんでいただけます。



安全で効果的なリハビリ

国内で唯一ドイツの認証（TÜV / ZAT*）を取得した信頼性の高い機器を採用しています。事前にお身体 の状況を把握したうえで、改善目標などを定めて、それに 応じたプログラムを提供するとともに、定期的に最新の 機器を活用して効果測定も行います。

※TÜV：一般的な工業製品規格であるISO規格に、ドイツの「機器安全法」における規格・基準を加えたもの
ZAT：ドイツの外來リハビリテーション施設の全国協会が定める医療用マシンに関する規格・基準

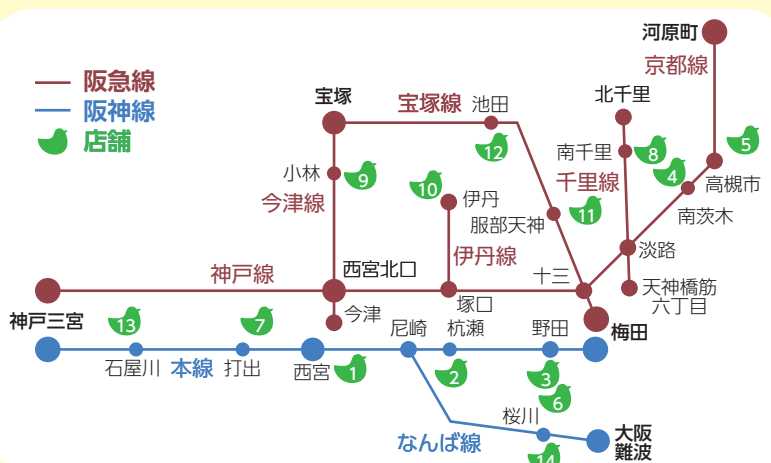


充実したスタッフ

リハビリ機器のメーカーから十分な技術指導を受けたスタッフがサービスの提供を行います。また、法令で定められた人数以上のスタッフを施設内に配置して、安心・快適にお過ごしいただけるようサポートします。



店舗展開



- 1 西宮店 0798-55-9051
- 2 尼崎杭瀬店 06-7161-8551
- 3 大阪野田店 06-7162-3499
- 4 南茨木店 072-620-6020
- 5 高槻店 072-674-5152
- 6 大阪野田南店 06-7182-6315
- 7 芦屋店 0797-23-2190
- 8 吹田店 06-6832-9911
- 9 宝塚店 0797-74-6700
- 10 伊丹店 072-777-0826
- 11 豊中店 06-6334-5688
- 12 池田店 0727-53-7171
- 13 神戸灘店 078-856-0061
- 14 大阪難波店 06-6568-6777

電話受付 毎週月曜日～金曜日（祝日営業）9:00～17:00

当社グループの多彩なサービスを無料・優待価格で



グループ優待券の主な内容 ※グループ優待券のご利用範囲については券面をご参照下さい。
 なお、ご優待内容や対象施設については、予告なく変更する場合がございますので、ご了承下さい。

旅行割引券



チンクエテッレ ヴェルナツツァ (イタリア)

施設入場券



六甲山スノーパーク

六甲オルゴールミュージアム

ホテル宿泊・飲食割引券



ホテル阪神

入館引換券



甲子園歴史館

(2017年11月現在)

優待内容	株主優待回数乗車証 (阪急・阪神共通回数カード)	株主優待乗車証 (全線バス)	グループ 優待券
100~199	2回カード×1枚 (2回乗車分)	—	1冊
200~479	4回カード×1枚 (4回乗車分)	—	
480~999	4回カード×3枚 (12回乗車分)	—	
1,000~1,999	25回カード×1枚 (25回乗車分)	—	
2,000~6,199	30回カード×2枚 (60回乗車分)	—	
6,200~9,799 ※①②のいずれかを選択	① 30回カード×2枚 (60回乗車分) ② 10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪神電車全線バス1枚	
9,800~15,999 ※①②のいずれかを選択	① 10回カード×1枚 (10回乗車分) ② 10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪急電車全線バス1枚 阪神電車全線バス1枚	
16,000~199,999	10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪急電車全線バス1枚 + 阪神電車全線バス1枚	
20万以上	10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪急電車全線バス10枚 + 阪神電車全線バス10枚	

株主優待乗車証 (全線バス)



- ・阪急電車全線バスの適用区間：阪急電車線全線 (神戸高速線を除く)
- ・阪神電車全線バスの適用区間：阪神電車線全線 (神戸高速線を除く)

株主優待回数乗車証 (阪急・阪神共通回数カード)



共通回数カードの適用区間：阪急電車線及び阪神電車線全線 (いずれも神戸高速線を除く)

株主優待については、9月30日、3月31日の株主名簿に基づき、それぞれ11月下旬、5月下旬に発送します。

利益配分に関する基本方針及び当期の配当

利益配分につきましては、近時の業績が安定的に推移していることに加えて、「有利子負債/EBITDA倍率 5倍台」を2期連続で達成するなど財務体質の改善も着実に進捗していることを踏まえ、株主の皆様への利益還元の充実を図るため、今期の利益配分から、1株当たりの年間配当金を35円から40円に引き上げると同時に、総還元性向（親会社株主に帰属する当期純利益に対する年間配当金総額と自己株式取得額の合計額の割合）も従来の25%から30%に変更し、安定的な配当の実施と自己株式の取得に取り組むことを基本方針としております。

この考えに基づき、2017年度の年間配当金につきましては、1株当たり40円を予定しており、利益還元をより適時に行うため、この度1株当たり20円の間配当を実施しました。そして、期末には1株当たり20円の配当を実施する予定です。

なお、内部留保資金の使途につきましては、各コア事業の競争力強化を図るための資金需要に備えるとともに、財務体質の強化に充てていきます。

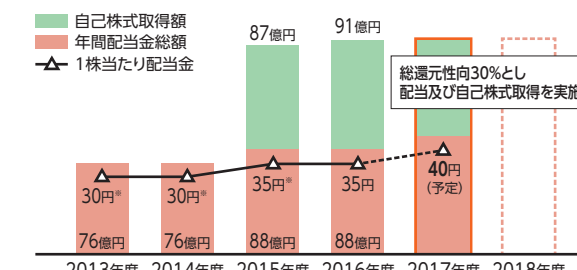
(ご参考) 総還元性向の算出方法

$$n \text{ 年度の総還元性向 } (\%) = \frac{(n \text{ 年度の年間配当金総額}) + (n+1 \text{ 年度の自己株式取得額})}{n \text{ 年度の親会社株主に帰属する当期純利益}} \times 100$$

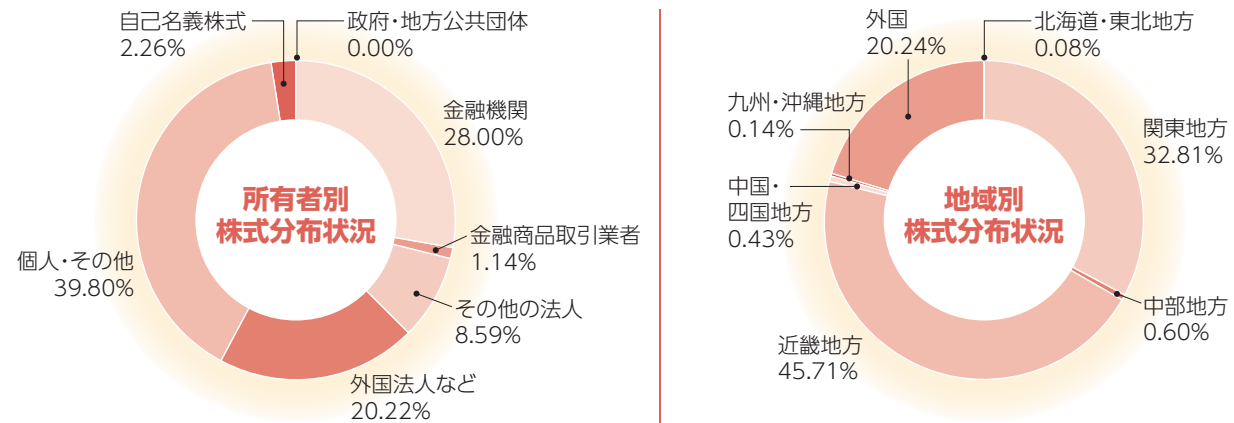
中間配当

中間配当金（1株につき20円）は、2017年12月1日からお支払いしますので、「配当金領収証」によりお受け取り下さい。また、銀行などへの口座振込みをご指定の方は、「配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認」のご案内によりお確かめ下さい。

なお、「配当金領収証」により配当金を受け取られる株主様にも「配当金計算書」を送付しております。配当金を受け取られた後の配当金額のご確認や確定申告の添付書類としてご利用下さい。



※2016年8月1日を効力発生日として5株を1株とする株式併合を実施しており、2015年度以前の1株当たりの年間配当金は、株式併合を考慮した換算値です。



決算期

3月31日

定時株主総会

6月

基準日

定時株主総会

権利行使株主確定日 3月31日

期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

単元株式数

100株

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

〒541-8502 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

TEL.0120-094-777(通話料無料)

公告方法

電子公告

(但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載)

電子公告掲載URL <http://www.hankyu-hanshin.co.jp/ir/>

株式のお手続に関するお問い合わせ先

手続の内容	株式口座の開設先	証券会社	特別口座(※1)
マイナンバーのお届出(※2)	口座開設先の証券会社	証券会社	三菱UFJ信託銀行株式会社(口座管理機関) 大阪証券代行部 TEL.0120-094-777 (通話料無料)
住所変更、単元未満株式買取請求・買増請求などの各種お手続			
特別口座から証券会社の口座への振替請求			

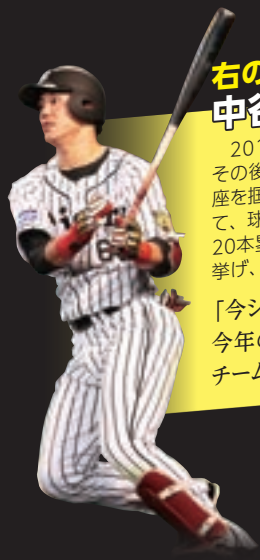
※1 2009年1月5日の株券電子化時に、株券をお手元に保管されていた株主様の株式(登録株を含む)につきましては、特別口座で管理されています。
特別口座で管理されている株式につきましては、一般口座にお振替いただくことができます。三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部までお問い合わせ下さい。

※2 2015年10月以降、市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続が必要となるため、株主様から、株式口座開設先の証券会社などへ、マイナンバーをお届出いただく必要があります。マイナンバーのお届出の詳細につきましては、株式口座開設先の証券会社などまでお問い合わせ下さい。



最後まで熱いご声援をありがとうございました

皆様からいただいたご声援のおかげで今シーズンも最後まで戦い抜くことができ、レギュラーシーズンは2位と昨年から躍進しました。しかし、クライマックスシリーズで敗退し、悔しさの残るシーズンとなりました。金本監督体制3年目となる来シーズンこそは、セ・リーグ優勝・日本一を目指していきます。



**右の和製大砲
中谷 将大 外野手**

2010年にドラフト3位で入団。堂々とした体格で捕手として入団したが、その後外野手へと転向。プロ7年目を迎えた今シーズン、初めて開幕1軍の座を掴むと、夏場にはクリーンアップに定着した。持ち前の長打力を活かして、球団生え抜きの右打者では2006年以来11年ぶりの快挙となるシーズンで、20本塁打を達成。また、出場試合数や安打数なども、自身最高の成績を挙げ、右の和製大砲として今後が囁望される。

「今シーズンは、とにかくチームに貢献したい一心で戦ってきました。今年の成績に満足せず、来シーズンはもっとホームランを打って、チームの勝利に貢献していきたいです。」

**正確無比のコントロール
秋山 拓巳 投手**

2009年にドラフト4位で入団。プロ1年目から4勝を挙げ注目されるも、その後6年間伸び悩んだ。勝負をかけた今年は、抜群のコントロールと球威のある直球を武器に、自己最多の25試合に登板し、チームトップとなる12勝をマーク。今後もチームの先発投手陣の柱を担うことが期待される。

「プロ8年目で初めて、シーズンを通して投げることができました。来シーズンも一球一球を大事にして、もっとチームの勝利につながるような投球をしていきます。応援よろしくお祈りします。」

「来年、日本一を目指します」

阪神タイガース 金本 知憲 監督



「1年間、温かいご声援をありがとうございました。今年の悔しさを晴らすべく、チームの課題である、内野手の守備力を磨くとともに、若手や先発投手陣も強化して、来シーズンこそはセ・リーグ優勝・日本一を勝ち取ります。」